

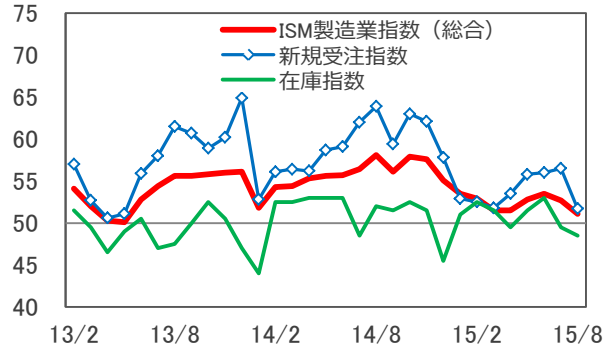
今日のトピック

米国のISM製造業指数（2015年8月） 2013年5月以来の水準まで低下

ポイント1 2カ月連続の下落 新規受注指数も続落

- 8月のISM製造業景況感指数は、総合指数が51.1ポイントとなり、前月の52.7ポイントから1.6ポイントの低下となりました。
- 総合指数を構成する5指標のうち、需要動向を示す新規受注、生産指数のほか、雇用、在庫指数が前月から下落しました。一方、上昇したのは入荷遅延指数のみでした。

(ポイント) 【ISM製造業指数】



(注) データの期間は2013年2月～2015年8月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセット
マネジメント作成

ポイント2 外需の鈍化が生産を抑制 内需は個人消費を中心に堅調

- 新規受注、生産指数の下落は、夏場にかけて需要が鈍化したことを示唆しています。国内の個人消費が堅調に推移していることを踏まえると、輸出の停滞によるものと考えられます。中国を中心としたアジア経済の減速が背景にあるようです。
- 一方で、在庫指数も低下しました。リーマン・ショック以降、製造業は厳格な在庫管理を行う傾向にあります。堅調な内需動向と合わせて考えると、大規模な在庫調整が発生する可能性は低いと見られます。

【ISM製造業指数】

	(ポイント)			
	6月	7月	8月	前月比
総合	53.5	52.7	51.1	▲ 1.6
新規受注	56.0	56.5	51.7	▲ 4.8
生産	54.0	56.0	53.6	▲ 2.4
雇用	55.5	52.7	51.2	▲ 1.5
入荷遅延	48.8	48.9	50.7	+ 1.8
在庫	53.0	49.5	48.5	▲ 1.0

(注) 総合指数は、上記の5つの構成指数の平均。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセット
マネジメント作成

今後の展開 足元の生産は横這い、秋口から上向き見通し

- 雇用・所得環境が良好なことから、内需は堅調を維持すると予想されます。他方、外需は当面のところ緩慢な状況が続くそうです。中国経済が在庫調整局面にあるためです。製造業の生産活動は秋口まで横這いの推移となりそうです。
- 中国では、今年10-12月期に景気テコ入れ策の効果が表面化してくる見込みです。米国内では個人消費の堅調に加え、設備投資に持ち直しの動きが見られるようになりました。こうしたことから米国の生産は10-12月期に上向き見通しです。

ここもチェック! 2015年8月21日 「FOMC議事録」と金融政策（米国） 2015年8月18日 最近の指標から見る米国経済（2015年8月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。